

# ブナ立尾根から水晶岳往復

～残雪の黒部源流部を覗きに～

2022/5/3～5/6 松野

5/3 晴れ

何年ぶりかの七倉ダム。もっと登山者がいるのかと思っていたが閑散としている。朝 6 時半にゲートが開くと同時にタクシーで高瀬ダムへ。(アルプス第一交通で往復乗ると片道 1500 円になる)

この日ブナ立尾根に取り付いたのは 3 パーティー。先行者のトレースのおかげで順調に高度を稼ぐ。上部で彼らに追いつき、トレースのお礼を言ってその先は私が先行した。

烏帽子小屋に着くとそこは広い雪原になっていて、どこにテントを張ろうか迷ってしまった。



▲ブナ立尾根上部



▲烏帽子小屋の雪原

5/4 晴れ

朝から天気は良いが風が強い。三ツ岳手前あたりから暴風になり、時折耐風姿勢をとる。ヨタヨタ前進していたが息も出来ないくらいの時もあり、一旦待機して風をやり過ごすことに。稜線の風下側の雪を掘り下げテントをかぶってうずくまる。うとうとし始めてしまい 2 時間ほどそうしていたが、風が止む気配はない。しかしこんなことをし

ていたらこの先の行程が危ぶまれると思い、仕方なしに歩き出す。その矢先、前方から引き返してくる単独行者がいた。昨日同じブナ立尾根を登ってきた人で、三俣へ抜ける予定だと聞いていたが風が強いたので引き返すとのこと。



▲裏銀座の稜線

この後も黒部からの強風が何にも遮られることなく私にぶつかってくる。ノタノタ歩きが続き、正午頃、野口五郎小屋にたどり着いたところで行動終了とし、小屋の軒下にテントを張った。午後2時半頃だろうか、別の単独行者が来たがすぐにどこかへ行ってしまい、この晩ここで泊まったのは私だけ。小屋は冬季小屋として開放されているが、なんとなくテントの方が落ち着く。

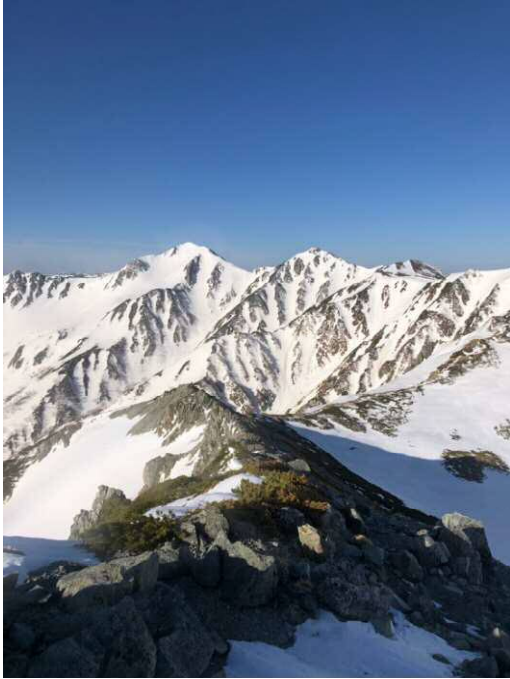


5/5 晴れ

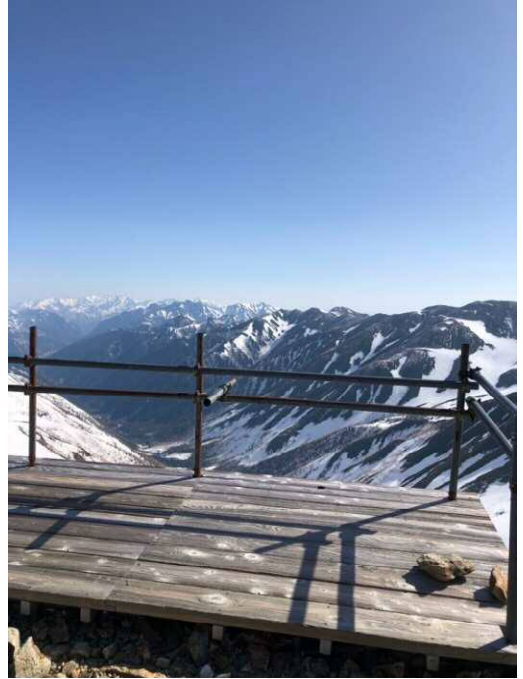
夜明け前、テントの外に出ると、今にも落ちてきそうな星空ともすごい数の星で埋め尽くされた天の川。空が近い。ヘッドランプを点けて歩き出す。野口五郎岳山頂で日の出を迎え、その先に槍・双六方面の山々が見えてきた。今山行の最終目的地の鷲羽岳も見えるがちょっと遠い。とりあえず水晶岳を目標に進む。

竹村新道分岐から先、これまであった薄いトレースがなくなり、東沢側のハイマツの中を歩いたり、湯俣側の雪だまりを踏み抜きながら進んだりと時間がかかった。その後、東沢乗越に出ると突如新しいトレースが現れた。三俣方面からはスキーヤーが入っているらしく谷にも滑降跡やシール登高の跡が見られた。その後トレースをたどり水晶小屋に到着したが誰もいない。

▲早朝の槍ヶ岳

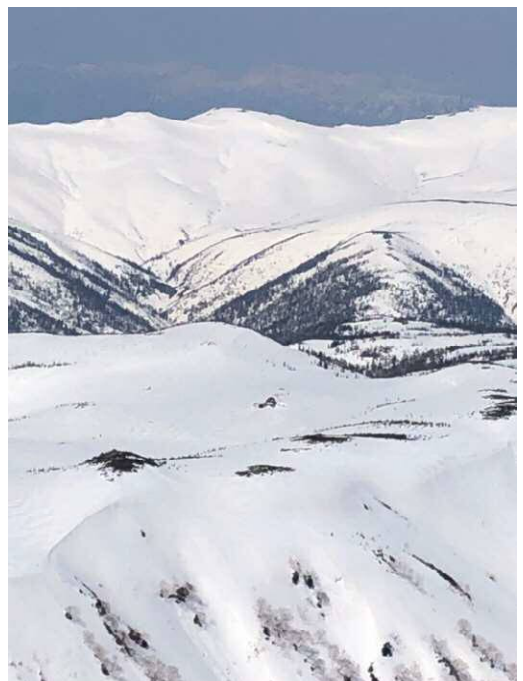


▲東沢乗越への尾根とその奥に鷲羽岳



▲水晶小屋のテラスから針ノ木方面

小屋に荷物をデポして水晶岳へ向かう。途中で1箇所急な雪壁があり注意して登る。山頂を見上げると赤いヤッケの人影が見えた。人恋しいのか追いつこうと思って歩調を早めたが、山頂はすでに無人だった。その先の読売新道にも人影はなく何処へ行ったのかと見回すと、山頂から東沢側にスキーのシュプールが残っていた。





▲水晶岳山頂から鷲羽・双六・笠ヶ岳

▲雲ノ平山荘と北ノ俣岳方面

見たかった残雪の黒部源流部は広大でひっそりしていた。黒部五郎から北ノ俣岳、薬師岳へ続く白い稜線、眼下の雲ノ平の大雪原の真ん中にはポツと雲ノ平山荘が建っている。これは歩きではとても廻りきれない。そしてこの山行の最終目的地の鷲羽岳に行くには、私の体力では予備日を使わないと行けそうもない。この先天気も悪くなさそうだが行く元気はなく、鷲羽岳はまたの機会にして来た道に戻ることに。

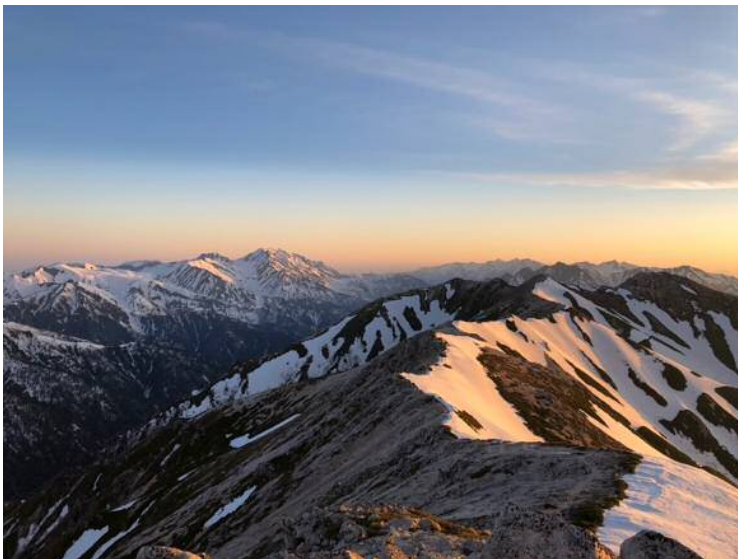


▲水晶小屋から野口五郎へ戻る



▲野口五郎岳に戻って水晶岳を見る

戻りながら振り返ると鷲羽岳山頂からも湯俣側にスキースキーの滑降跡が見えた。みんな GW の山を自由に歩き廻り楽しんでいる。夕方 4 時頃に野口五郎小屋に戻り、この日も誰もいない小屋の軒下でテント泊。



5/6 晴れ

日の出とともに下山開始。2 日前に強風だった稜線もこの日は穏やかだった。どこまでも続く山並みを眺めながらのんびり下る。

誰もいなくなった烏帽子小屋を通り過ぎ、ブナ立尾根を下る。トレースはあるが尾根は枝分かれしていて、案の定違う方角へ迷い込むトレースもあつたり、上部の雪壁には滑落しかけた跡もあつたりして注意が必要だ。午後 2 時に七倉ダムに戻り、新緑の高瀬川に面し

た七倉山荘でお風呂と食事を済ませ帰路についた。久しぶりの長い山旅だった。